シルク・ドゥ・ソレイユ研究
～アートサーカスの魅力とセカンドキャリアとしてのシルク・ドゥ・ソレイユ～

Research of the cirque du soleil
～Attraction of the art circus and cirque du soleil as a second career～

1K10C367　藤田　研史
主査 太田　章 先生　　副査 土屋　純 先生

【目的】

1984 年カナダケベック州モントリオールで生まれたシルク・ドゥ・ソレイユは誕生以来急速に成長し今や世界的なエンターテイメント集団となった。シルク・ドゥ・ソレイユのアーティストの多くは国際大会での競技経験がある選手であり、スポーツ選手のセカンドキャリアとして世界中で注目されている。

一方日本でシルク・ドゥ・ソレイユの知名度は近年あがってきているとはいえ、サーカスをひとつの仕事として考え､セカンドキャリアとしようとするものは少ない。プロスポーツが存在しない選手にとっては選手引退後のことは死活問題である。そこで、シルク・ドゥ・ソレイユが日本の選手のセカンドキャリア、職業として認められれば多くの選手が安心して競技生活をおくった後、自分のそれまで競技で育んだ技術を生かし世界で活躍し続けることができるかもしれない。しかし、福利厚生や入社等の壁が存在するのは事実である。そこで、この提案が可能であるか論文で実際に検証してく。

また、合わせてシルク・ドゥ・ソレイユを日本でさらにメジャーにするために、シルク・ドゥ・ソレイユの魅力を探ると同時に、その魅力はどのように生まれるか考える。

【方法】

自身が世界中で観覧したシルク・ドゥ・ソレイユのショーから感じた魅力､実際に本社があるモントリオールを訪れて感じたことを記していきたい。加えて、伝統サーカス、アートサーカス問わずサーカスに関係する情報を各機関のホームページ、書籍から必要な情報をまとめる。流れとして書籍、ホームページから得た客観的なデータを示し、まとめる。その後、主観的な考察を加えることで、上記の目的についてはっきりさせていく。また、シルク・ドゥ・ソレイユの魅力という観点では主に、シルク・ドゥ・ソレイユと比較される昔ながらのサーカス､つまり伝統サーカスとの比較を中心に行っていく。

【結果】

シルク・ドゥ・ソレイユは誕生して以来常に新しいショーをつくり続け、様々な人々に与える影響、付随する産業へ影響を与えてきた。シルク・ドゥ・ソレイユの魅力はマンネリ化した伝統サーカスから発展したショー､具体的には潜在的な直感に訴えたり､特別な空間をつくったりという大人を対象にしたサーカス作りであった。このようなサーカスが生まれた背景には州や市の助成によるアーティストが住みやすい環境、サーカス学校の存在があった。

セカンドキャリアとして成立するかという疑問にたいしては、十分機能すると考えられる。主な理由として、シルク・ドゥ・ソレイユは福利厚生、キャリアサポート等十分なサポート体制が整っており､安心して働くことができる。

しかし､一方アートサーカスが日本で発展することは環境の違い等で難しい。日本ではケベック州のようにアーティストを受け入れる体制は整っておらず、シルク・ドゥ・ソレイユをはじめ､サーカスが職業と認められるような社会になるのは遠い先のこととなりそうである。

【考察】

セカンドキャリアとして人々に認識されるようになるには現在シルク・ドゥ・ソレイユで活躍している日本人が帰ってくるのを待ち､彼らが何らかの形でアートサーカスと関わることが必要である。

いずれ日本でもアートサーカスが盛んになり多くの人がアートサーカスに感動し､多くのアスリートがセカンドキャリアとして自分の好きなことを仕事にできるという、素敵な国になることを期待したい。

また、今回は文献の研究ということで、直接働いているアーティストの焦点はあまりあてなかった｡そのため、実際アーティストとして働いている人とは若干ことなる見解になったかもしれない。今後、実際に働いている人から話を聞くことで、より具体的でリアリティのあふれる提案ができるかもしれない。その点で、まだ研究の余地があるテーマだと感じた。